

RX Japan合同会社
 アメリカン・モーション・ピクチャ・アソシエーション・オブ・ジャパン
 株式会社IMAGICA GROUP
 一般社団法人映画産業団体連合会
 一般社団法人衛星放送協会
 公益社団法人映像文化製作者連盟
 株式会社ADKエモーションズ
 エイバックス株式会社
 株式会社エスピーオー
 株式会社NHKエンタープライズ
 大蔵映画株式会社
 一般社団法人外国映画輸入配給協会
 株式会社KADOKAWA
 株式会社カブコン
 株式会社キネマ旬報社
 株式会社キノフィルムズ
 ギャガ株式会社
 株式会社京映アーツ
 キングレコード株式会社
 株式会社クオラス
 株式会社講談社
 株式会社コーエーテクモゲームス
 株式会社コナミデジタルエンタテインメント
 一般社団法人コンサートプロモーターズ協会
 一般社団法人コンピュータエンターテインメント協会
 埼玉県 彩の国ビジュアルプラザ
 株式会社サンリオ
 一般財団法人出版文化産業振興財団
 松竹株式会社
 株式会社スクウェア・エニックス・ホールディングス
 株式会社STUDIO4℃
 一般財団法人セガサミー文化芸術財団
 全国興行生活衛生同業組合連合会
 一般社団法人全日本テレビ番組製作社連盟
 ソニーPCL株式会社
 株式会社ソニー・ピクチャーズエンタテインメント
 株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメント
 株式会社第一興商
 高津装飾美術株式会社

有限会社ティーアイ・コムネット
 株式会社TBSテレビ
 株式会社ティーワイリミテッド
 一般財団法人デジタルコンテンツ協会
 株式会社デジタルSKIPステーション
 一般財団法人デジタル政策財団
 株式会社手塚プロダクション
 株式会社テレビ朝日
 株式会社テレビ東京
 株式会社電通
 東映株式会社
 東映アニメーション株式会社
 東映ラボ・テック株式会社
 東宝株式会社
 学校法人東放学園 東放学園専門学校
 東宝東和株式会社
 株式会社東北新社
 株式会社トーセ
 株式会社トーハン
 株式会社ドリーミュージック
 株式会社ドリコム
 中日本興業株式会社
 日活株式会社
 株式会社日経BP
 日本アカデミー賞協会
 日本アニメーション株式会社
 協同組合日本映画製作者協会
 一般社団法人日本映画製作者連盟
 一般社団法人日本映画テレビ技術協会
 一般社団法人日本映像ソフト協会
 日本映像翻訳アカデミー株式会社
 一般社団法人日本音楽事業者協会
 一般社団法人日本音楽制作者連盟
 日本コロムビア株式会社
 日本テレビ放送網株式会社
 一般社団法人日本動画協会
 一般社団法人日本民間放送連盟
 一般社団法人日本レコード協会
 株式会社博報堂

株式会社パップ
 株式会社バンダイナムコフィルムワークス
 ぴあ株式会社
 株式会社フジテレビジョン
 特定非営利活動法人ブロードバンド・アソシエーション
 株式会社HOKUETSU PLANETS
 株式会社ポケモン
 株式会社ポニーキャニオン
 株式会社ポリゴン・ピクチュアズ
 株式会社ホリプロ
 武蔵野興業株式会社
 ユニバーサルミュージック合同会社
 吉本興業ホールディングス株式会社
 讀賣テレビ放送株式会社
 一般社団法人ライセンスシングインターナショナルジャパン
 株式会社ラパン
 琉球放送株式会社
 株式会社ワーナーミュージック・ジャパン
 株式会社WOWOW
 【賛助会員】
 株式会社きんでん東京本社
 スーパーJSAT株式会社
 高砂熟学工業株式会社
 株式会社みずほ銀行

合計:101社・団体

2025 年間活動報告書 Annual Report 2025.4.1 - 2026.3.31



〒104-0045 東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル 2F
 TEL : 03-3543-7531 FAX : 03-3543-7533
 URL : <https://www.vipo.or.jp/>

編集・発行 特定非営利活動法人映像産業振興機構
 2026年6月24日発行



この製品は、FSC® 認証材および管理原材料から作られています。
 また、インクは一部に植物油を使用して揮発性有機化合物の発生を抑えた「VEGETABLE OIL INK」を使用し、有害廃液を排出しない「水なし印刷」を採用しています。





コンテンツの未来へ、 つなげる、ひろげる。

コンテンツ業界に関わるすべての人たちへ
VIPOは、「まなび」「つながり」の機会を提供し
ビジネスの輪がひろがるよう、サポートしていきます。

VIPOの 主な事業テーマ

人材育成

放送

映画

アニメ

マンガ

海外展開 市場開拓

キャラクター

ゲーム

音楽

出版

ヴィーボ
VIPOは日本のコンテンツ産業の国際競争力の強化を推進し、日本経済の活性化に寄与することを目的に、2004年に設立されたNPO法人です。
〈人材育成〉〈海外展開・市場開拓〉の支援を中心に、様々な活動を通して、業界全体のさらなる価値向上と長期的発展をグローバルな視点に立ちサポートしています。

ご挨拶

2025年度の年間活動をご報告するにあたり、日頃の皆様のご理解とご支援に、心より感謝申し上げます。
VIPOは、今年度も、日本のコンテンツ業界における人材育成と海外展開の支援を柱に、経済産業省、文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会等からの受託事業および自主事業を遂行し、業界の基盤強化に取り組んでまいりました。

政府は2033年までにはコンテンツ産業の海外売上高20兆円を達成という目標を掲げており、昨年は「エンタメ・クリエイティブ産業戦略」を策定し、官民連携による国際展開と競争力強化の推進と新しいコンテンツ産業政策を具体化させました。（経済産業省「エンタメ・クリエイティブ産業戦略」HP参照）こうした動きを背景に、2025年度のVIPOは、世界市場で持続的に競争力を発揮するための「人への投資」を一層加速させた年となりました。具体的には、2027年までの複数年度事業を含め、以下のプログラムを新たに受託し、運営しております。

・世界水準のグローバル人材の育成

「ショーランナーおよびドラマクリエイター育成プログラム」:
国内の放送事業者や番組制作会社を対象に、制作総指揮を担うことのできるグローバル人材を育成。

・制作現場のスキルのボトムアップ

「Film Nexus-PRO」:
映画制作スタッフのスキルを国際標準へと引き上げ、グローバルな現場で即戦力となる人材を養成。

・次世代のクリエイターの創出

「Film Nexus-SEED」:
国内で映画を学ぶ学生を対象に、産学連携プログラムを通じて若手クリエイターが国際的に活躍するための素養と実践的な社会人スキルを習得。

これらに加え、VIPOのネットワークを活かした伴走支援やこれまで継続してまいりました多角的な支援が着実に実を結び、具体的な作品やプロジェクトとして花開いた成果（詳細は本誌P3-4参照）を、生み出すことができました。

また、今日のコンテンツ業界を語るうえで、生成AIをはじめとするテクノロジーの劇的な進化は欠かせません。AIは創作の効率化や新たな表現の可能性をもたらす一方で、権利保護やクリエイティビティの本質に関わる重要な課題も提起しています。VIPOは、こうした技術革新を脅威としてのみ捉えるのではなく、日本の持つ豊かな創造力と融合させることで、「世界市場における新たな価値」へと昇華させていくことが重要であると考えております。その取り組みとして2025年度には「2時間で学ぶ AIの権利と法務の最前線」（自主事業 福井健策弁護士セミナーより）、今年度は「映像・アニメビジネス×生成AI」をテーマにセミナーを開催し、生成AIと知的財産権との望ましい関係の在り方等について学びの場を提供していきます。AIという強力なツールとの適切な共生を支援していくことも、今後の重要な使命の一つと位置付けております。

今後も、変化の激しい市場環境の中で、日本の才能が世界の舞台で最大限に輝けるよう、職員一丸となって取り組んでまいります。引き続き、皆様の変わらぬご支援とご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



理事長 松谷孝征



専務理事・事務局長 市井三衛

事業の成果

2025年度の代表例

藤元明緒監督・渡邊一孝プロデューサー 『LOST LAND／ロストランド』

- 第82回 ヴェネツィア国際映画祭三冠受賞
- ★「オリゾンティ・コンペティション部門」審査員特別賞
- ★「最優秀アジア映画賞」特別表彰賞
- ★「ピサート・ドーロ賞(金の鰻賞)」最優秀監督賞

- 令和4年度JLOX 映像制作等支援(経)
- 令和5年度コンテンツ産業の海外展開等支援:
ファーイースト映画祭「FOCUS ASIA 2024」参加(渡邊一孝プロデューサー)(経)
「First Cut Lab Japan 2024」参加(藤元明緒監督、渡邊一孝プロデューサー)(経)
- 令和5年度JLOX+ 海外向けのローカライゼーション&プロモーション支援(経)
- 令和6年度JLOX+ 海外向けのローカライゼーション&プロモーション支援(経)



©2025 E.x.N K.K.



藤元明緒監督



渡邊一孝プロデューサー

早川千絵監督・水野詠子プロデューサー 『ルノワール』

- 第78回カンヌ国際映画祭「コンペティション部門」選出
- 大島渚賞受賞(早川千絵監督)

- 令和2年度日本映画海外展開強化事業 短期実践研修参加(早川千絵監督)(文)
- 令和4年度JLOX 映像制作等支援(経)
- 令和5年度コンテンツ産業の海外展開等支援:
「First Cut Lab Japan 2024」参加(早川千絵監督、水野詠子プロデューサー)(経)
- 令和5年度JLOX+ 海外向けのローカライゼーション&プロモーション支援(経)
- 2021 VIPO Film Lab 国際プロデューサーコース参加(水野詠子プロデューサー)



©2025「ルノワール」製作委員会/ International Partners



早川千絵監督



水野詠子プロデューサー

田中栄子プロデューサー (STUDIO4℃) 『ChaO』

- アヌシー国際アニメーション映画祭 2025「長編コンペティション部門」審査員賞受賞

- 令和5年度コンテンツ産業の海外展開等支援事業:
カンヌ「Spotlight Asia」参加(田中栄子プロデューサー)(経)
- 令和5年度JLOX+ 海外向けのローカライゼーション&プロモーション支援(経)
- 令和6年度JLOX+ 海外向けのローカライゼーション&プロモーション支援(経)



©2025「ChaO」製作委員会



田中栄子プロデューサー

VIPOは官民連携のもと、日本コンテンツの海外展開支援や、グローバルに活躍できるクリエイターの育成を継続的に推進しています。これまでの多角的な支援が、2025年度には国際映画祭における主要部門での受賞や、海外出版の決定など、数多くの成果となって現れました。

受託元略称: (経)経済産業省 / (文)文化庁 / (京)京都府 / 略称の無い事業はVIPO自主事業

坂本悠花里監督 『白の花実』

- 第73回サン・セバスティアン国際映画祭「New Directors部門」クロージング作品選出

- ndjc2022
「長編映画の企画・脚本開発サポート」参加(文)
- 2023 VIPO Film Lab 監督コース 参加



©2025 BITTERS END/ CHIAROSCURO

団塚唯我監督 『見はらし世代』

- 第78回カンヌ国際映画祭「監督週間」日本人史上最年少で選出

- ndjc2021
「若手映画作家育成プロジェクト」参加(文)



© 2025 シグロ / レプロエンタテインメント

松本太一プロデューサー 『八月の声を運ぶ男』

- NHK戦後80年ドラマ放送(2025年8月13日放送)
- 2025年度ギャラクシー賞「テレビ部門」大賞受賞

- 2023 VIPO Film Lab
映画の企画開発講座参加企画



松本太一プロデューサー

薦 哲一朗監督 『黒の牛』

- 第49回香港国際映画祭
最高賞Firebird Award受賞
長編化実現、2026年1月劇場公開

- 2016 京都映画企画市 優秀映画企画
パイロット版映像(京)
- 令和元年度J-LOD 海外向けコンテンツ製作に資する資金調達・人材育成を行う事業(経)
- 令和5年度JLOX+ 海外向けのローカライゼーション&プロモーション支援(経)



©NIKO NIKO FILM / MOOLIN FILMS / CINEMA INUTILE / CINERIC CREATIVE / FOURIER FILMS

高瀬隼子著

『おいしいごはんが食べられますように』 (講談社)

- ドイツの出版社から
2026年2月翻訳出版決定

- 令和6年度活字文化のグローバル発信・普及事業:フランクフルト・ブックフェア2024
ドイツ出版社との商談会(文)



JLOX+補助金の活用事例

VIPOが事務局運営を担った、
経済産業省「JLOX+補助金」の代表的な活用事例

『レンタルファミリー』

- 令和5年度JLOX+
海外制作会社による国内ロケ誘致等に係る支援 (経)



© 2025 Searchlight Pictures. All Rights Reserved

『国宝』

- 令和5年度JLOX+
国内映像制作を行う事業(経)



©吉田修一／朝日新聞出版
©2025 映画「国宝」製作委員会

「Music Awards Japan 2025」

- 令和6年度JLOX+ 海外向けのローカライゼーション&
プロモーション支援(経)



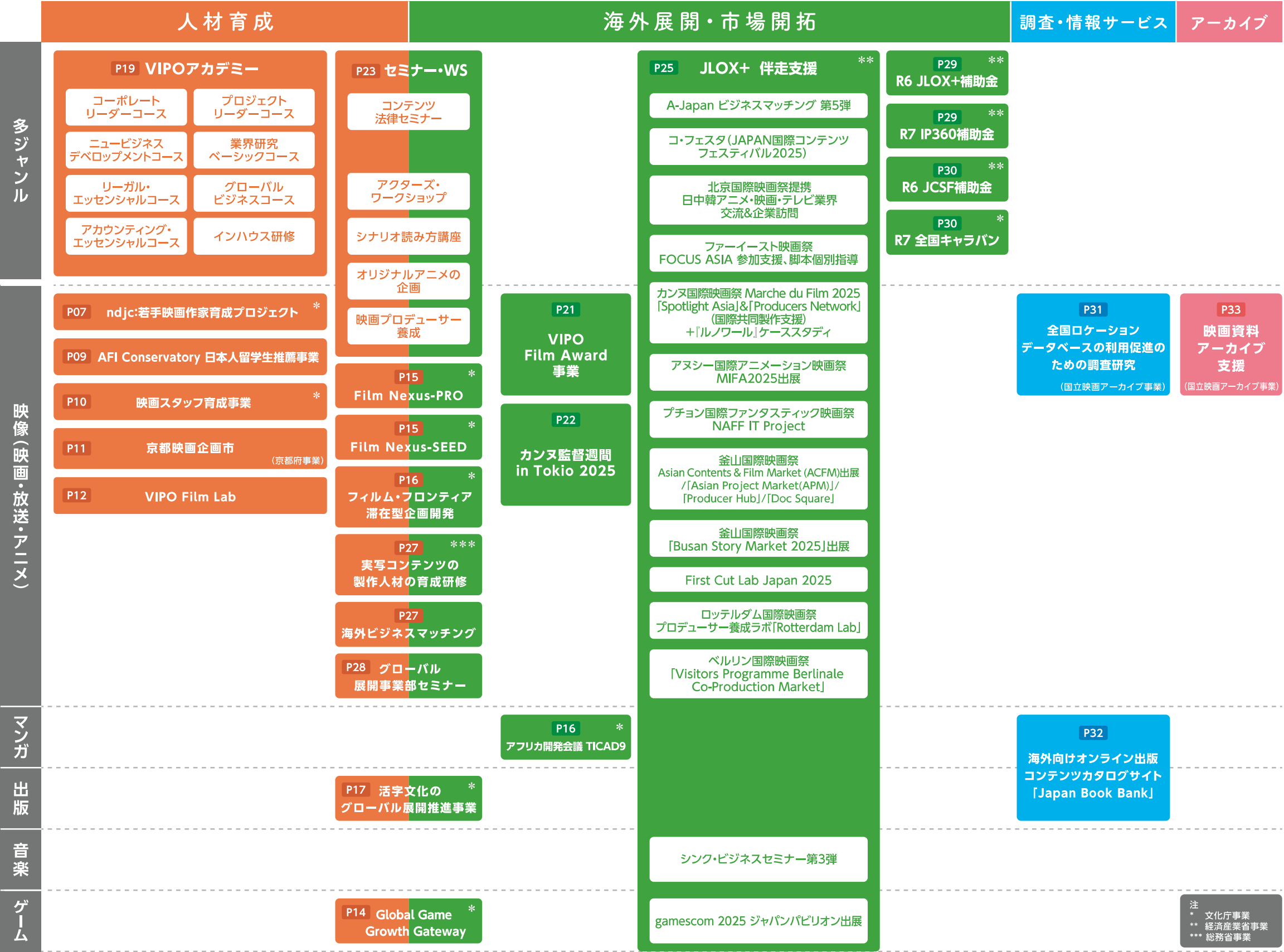
©CEIPA / MUSIC AWARDS JAPAN2025

VIPO設立までの経緯

- 2004年3月の日本経済団体連合会の提言「『知的財産推進計画』の改訂に向けて」において、映像産業全般の振興を推進する機関の設置を提言。
- 11月、映像産業関連事業者を中心とする設立準備委員会を立ち上げ、同機関の事業内容等について詳細を固めたうえで、12月6日に設立総会を開催し、初代理事長として迫本淳一が就任。

INDEX	
P03-04	・事業の成果 2025年度の代表例 ・設立の経緯
P05-06	・VIPO事業マッピング ・組織図 ・総会等開催実績
P07-09	・ndjc:若手映画作家育成プロジェクト ・AFI Conservatory 日本人留学生推薦事業
P10	・映画スタッフ育成事業
P11	・京都映画企画市
P12-13	・VIPO Film Lab
P14	・クリエイター等支援事業(育成プログラム構築・実践)ゲームの海外展開に向けた実践的社会人育成支援プログラム「Global Game Growth Gateway」
P15	・Film Nexus-PRO ・Film Nexus-SEED
P16-18	・フィルム・フロンティア 滞在型企画開発 ・令和7年度文化庁「国際文化交流・協力推進事業」(TICAD9関連イベントに係る調査及び企画運営実施業務) ・活字文化のグローバル展開推進事業
P19-20	・VIPOアカデミー
P21	・VIPO Film Award事業
P22	・カンヌ監督週間 in Tokio 2025
P23-24	・コンテンツ業界向けセミナー&ワークショップ
P25-26	・令和6年度補正 クリエイター・事業者支援事業費補助金(クリエイター・事業者海外展開促進)JLOX+
P27-28	・実写コンテンツの製作人材の育成研修 ・海外ビジネスマッチング ・グローバル展開事業部セミナー
P29	・令和6年度補正 クリエイター・事業者支援事業費補助金(クリエイター・事業者海外展開促進)JLOX+ ・令和7年度補正 コンテンツ産業成長投資支援事業費補助金(海外展開支援・開発プラットフォーム構築支援)IP360
P30	・令和6年度補正 クリエイター事業者支援事業費補助金(文化芸術活動基盤強化基金造成費) ・令和7年度 舞台芸術等総合支援事業(全国キャラバン)
P31	・全国ロケーションデータベースの利用促進のための調査研究
P32	・海外向けオンライン出版コンテンツカタログサイト「Japan Book Bank」
P33	・アーカイブ中核拠点形成モデル事業
P34	・VIPOインタビュー
※事業名称の表記について 各組織・団体等の名称については、原則として「独立行政法人」「株式会社」などの法人格を省略して記載しています。 (例:独立行政法人日本芸術文化振興会→日本芸術文化振興会) また、NPO法人国際ゲーム開発者協会日本についてはIGDA日本として記載しています。	

VIPO事業マッピング



総会・理事会・幹事理事会 開催実績			
※すべてオンラインを併用			
I.総会	・令和7年6月26日(通常総会)		
II.理事会	・令和7年6月11日	・令和7年12月3日	
III.幹事理事会	・令和7年4月2日	・令和7年6月11日	・令和7年12月3日

組織図



◎正会員代表者、個人会員等から10〜50人

注
* 文化庁事業
** 経済産業省事業
*** 総務省事業

次代を担う長編映画監督の発掘と育成を目的として 文化庁よりVIPOが委託を受け実施しているプロジェクト

ndjc2025

36団体から69名の応募があり、一次選考を通過した15作家がワークショップに参加しました。その中から選出された4作家が最終課題である製作実地研修に進み、脚本開発を経て短編映画を製作。完成作品を合評上映会で発表しました。多方面からいただく講評は作家の今後の活動に役立たせるべく、すべてをフィードバックします。これまでに完成したndjc作品と併せて、今後も引き続き発表の機会を提供していきます。

スーパーバイザー

安藤親広

- 4月 作家公募
・映画関連団体より推薦を受けた作家から、ワークショップ参加者を決定
- 5月
- 6月
- 7月 ワークショップ
・【短編映像制作】同一のテーマ・条件で5分間の短編映像を制作(撮影・編集→上映・講評)
・【プレ脚本指導】個人面談にて講師からアドバイス(個人面談→脚本改稿)
- 8月
- 9月 製作実地研修
・25分以上30分以内の短編映画作品を製作(脚本開発→撮影→仕上げ→完成)
- 10月
- 11月
- 12月
- 1月 合評上映会・講評会
・映画業界関係者、マスコミ等を対象とした合評上映会
・講師等による講評会
・映画祭出品(国内外)、映画館での特集上映 他
- 2月
- 3月



ワークショップ



製作実地研修



合評上映会



講評会

ndjc2025 製作実地研修参加作家と完成作品

『36万リットルのオーバーフロー』



2026年/16:9/
29分/©2026 VIPO

監督
辻 俊



【作家推薦団体】
東京藝術大学大学院映像研究科映画専攻
【制作プロダクション】
Episcope
【出演】
辻 陸、朝木菜永、近藤フク、松永 滯

『繰り返す女』



2026年/ヨーロッパビスタ/
30分/©2026 VIPO

監督
中田江玲



【作家推薦団体】
PFF
【制作プロダクション】
DOTS&LINE
【出演】
伊藤 歩、田中麗奈、今本洋子

『うねうねとまっすぐ』



2026年/アメリカンビスタ/
30分/©2026 VIPO

監督
八代夏歌



【作家推薦団体】
PFF
【制作プロダクション】
ボトフ
【出演】
大和奈央、小方蒼介

『巡り巡る果て』



2026年/アメリカンビスタ/
30分/©2026 VIPO

監督
鴨林諄宣



【作家推薦団体】
福井映画祭実行委員会
【制作プロダクション】
東映シーエム
【出演】
平埜生成、桑駆、酒向 芳

事業発足20年、99名の映画監督を輩出(短編映画93作品+長編映画2作品+企画開発8作品) 国内外で活躍する監督が続々と誕生!

文化庁の委託を受けて2006年度よりスタートした「ndjc:若手映画作家育成プロジェクト」。優れた若手映画作家を対象に、本格的な映像制作技術と作家性を磨くために必要な知識や技術を継承するためのワークショップや製作実地研修を実施するとともに、作品発表の場を提供することで次代を担う長編映画監督の発掘と育成を目指しています。若手映画作家にとっては、プロのスタッフによる指導のもとオリジナル脚本の短編映画を製作するチャンスとなり、

完成作品は映画業界関係者・マスコミ等に向けた合評上映会や一般の観客に向けた映画館での特集上映、また国内外で開催される映画祭への出品などをおして、広く発表する機会を得ています。「長編映画の企画・脚本開発サポート」では、第一線で活躍する映画プロデューサーや映画監督、脚本家を講師に迎え、才能ある若手映画作家に対してオリジナル長編作品の企画・脚本開発およびパイロット映像制作のサポートを行いました。

長編映画の企画・脚本開発サポート

オリジナル長編映画の企画書・脚本を公募し、選考委員による一次選考にて12名を選出。選出された作家は、小泉徳宏(映画監督)、巢立恭平(プロデューサー)による企画開発講義を受講し、企画書をブラッシュアップしました。最終選考では各作家によるプレゼンテーションを行い、研修参加作家2名を選出しました。2名の作家は、講師による指導のもとで企画・脚本開発、パイロット映像の制作に取り組み、開発された脚本とパイロット映像をもって映画製作者に向けたプレゼンテーションを行いました。

講師

小泉徳宏(映画監督)／巢立恭平(プロデューサー)／小坂志宝(脚本家)

スケジュール

- 5月 募集開始
- 6月 募集締切
- 7月
- 8月 一次選考
- 9月 講義
- 10月 面接、最終選考
- 11月
- 12月 企画・脚本開発、パイロット映像制作
- 1月
- 2月 初稿・パイロット映像完成、プレゼンテーション
- 3月

研修参加作家と開発作品



田中亮丞監督
『ジュニアハイスクールウォーズ』

©2026 VIPO



中山剛平監督
『栄美の瞳に恋してる』

©2026 VIPO



プロジェクト実績が続々!

坂本悠花里監督『白の花実』(2022年度参加)



©2025 BITTERS END/CHIAROSCURO

第73回「サン・セバスティアン国際映画祭」New Directors部門でクロージング作品に選出。
第38回「東京国際映画祭」アジア・プレミアを経て、2025年12月に全国公開。

小宮山菜子監督『街に溶ける』(2023年度参加)



©2024 VIPO

制作したパイロット映像が、オムニバス映画「PLAYLIST アジアの才能」(配給:Stranger 提供:JAIHO)の一編として2026年6月より新宿武蔵野館、Strangerほか全国順次公開決定。

出身監督 近年の活躍



ndjc2019

山中瑤子監督

『ナミビアの砂漠』

第77回カンヌ国際映画祭 監督週間 正式出品
国際映画批評家連盟賞(女性監督史上最年少)
2024年9月6日公開

©2024「ナミビアの砂漠」製作委員会



ndjc2018

山元 環監督

『この夏の星を見る』

第17回TAMA映画賞 最優秀新進監督賞
第39回高崎映画祭 新進監督グランプリ
2025年7月4日公開

©2025「この夏の星を見る」製作委員会



ndjc2021

団塚唯我監督

『見はらし世代』

第78回カンヌ国際映画祭 監督週間
正式出品(日本人史上最年少)
2025年10月10日公開

©2025 シグロ / レプロエンタテインメント



ndjc2020

志萱大輔監督

『猫を放つ』

第30回釜山国際映画祭 コンペティション部門
正式出品
2026年5月2日公開

©2025 "Leave the Cat Alone" Film Partners



ndjc2014

吉野耕平監督

『君のクイズ』

2026年5月15日公開

©2026 映画「君のクイズ」製作委員会



ndjc2009

岨手由貴子監督

『すべて真夜中の恋人たち』

第79回カンヌ国際映画祭 ある視点部門
正式出品

©2026「すべて真夜中の恋人たち」製作委員会

※一部抜粋

AFI Conservatory 日本人留学生 推薦事業

自主事業

将来の映像産業を担うプロフェッショナルの発掘と育成を目指すとともに、日本の映画企画や若手クリエイターが世界に出ていく仕組みを構築することを目的とし、AFI (American Film Institute) Conservatoryへ留学を希望する日本人の推薦活動を行っています。2025年度は2026年秋学期に志願を予定する日本人留学生を対象に、推薦学生を募集いたしました。



AFIとは

米国の国家的な機関として、映像教育でのリーダーシップを発揮し、映画、テレビ、デジタル・メディアといった芸術分野において、その存在価値と卓越性が高く評価されています。AFIの教育機関であるAFI Conservatoryでは、撮影監督／監督／編集／プロデューサー／美術／脚本家のプロを育てるために制作実践、現場主義を基本とし、映画やテレビの世界からの実務プロフェッショナルで組織された指導者陣が教鞭をとっています。

映画スタッフ育成事業

文化庁 委託事業



映画スタッフを目指す学生に、実際の映画制作現場での実習を通して、現場での初歩的な知識と技術を習得させることを目的とした人材育成事業です。学生／学校／制作プロダクションと連携して、学校の授業だけでは習得、体験することができない、プロの制作現場において必要とされる知識、技術、スタッフ間でのコミュニケーション能力等を身につけ、卒業後に映画の制作現場で活躍できるスタッフを持続的に育成することを目指しています。2018年度から当機構が事務局を運営しています。映画学科や映像系学科等がある大学／専門学校等を中心に一般大学、美術大学、服飾美容系専門学校も含めて募集を行ない、2025年度は45人の学生が実写劇映画16作品の撮影現場にてインターン実習を経験しました。実習後アンケートでは制作会社／学生の両者から満足度と有益度が高い評価を得ました。[学生:有益度98%、制作会社:次の現場でも学生を受け入れたい98%]

実習職種

演出／撮影／照明／録音／制作／プロデューサー／美術／装飾／衣裳／ヘアメイク／編集／サウンドデザイン 等

実習生の声

- 自分の進むべき道について明確なビジョンを持つことができ、迷いが少なくなった。
- 「段取り」と「気配り」が作品の完成度を大きく左右することを学んだ。長期間の現場参加を通じて体方面・精神面の自己管理の大切さも学び、プロの現場で働く覚悟を持つことができた。
- ネットで調べてもいまひとつ分からなかった具体的な仕事内容についてたくさんお話を伺えたことが一番の収穫。
- 将来につながる素敵な出会いを沢山させていただいた。
- 様々な大変さを感じながらも迎えたクランクアップ時の感動はいつまでも忘れずにいたい。

学校関係者の声

- 現場での動き方や、やりがい、充実度など授業では得られないことを多く学んできた。
- 制作現場のリアルを知った上で、その中で関わりたいと考えられるようになったことは、キャリアを考える上で重要な経験。
- スタッフやキャストの方の仕事に対する情熱に感銘を受け、人間的にも成長できた。
- フリーランスか就職するべきかと悩んでいたことについて現場の皆さんが相談に乗ってくださって嬉しかったようだ。

制作現場の声

- 現場で学べる事があるので、学校は現場にどんどん生徒を送り込んでほしい。
- まだこんなにも映画をやりたいと思う若い子がいてくれるのかと感慨深いものがあった。
- インターンが来てくれて、撮影現場に新鮮な感覚を吹き込んでくれた。
- (学生から)質問されることで、自分の普段している仕事やその動きに至る目的などを言語化せざるを得ない状況になり、こちらも大変勉強になった。
- 地方ロケ特有の、宿泊しながらの実習だったので撮影の場と終了後も部内でコミュニケーションを取りながら中身の濃い体験をして頂けた。

2018年～2025年度 実習137作品

メジャースタジオ作品からインディペンデント系まで、時代劇や日本アカデミー賞受賞作品ほか海外映画祭出品作品など多彩な現場で実習。

2026年公開(予定)作品

『ゴジラ-0.0』山崎 貴監督／『ほどなく、お別れです』『君が最後に遺した歌』三木孝浩監督／『君のクイズ』吉野耕平監督／『黒牢城』黒沢 清監督／『キングダム 魂の決戦』佐藤信介監督／『mentor』吉田恵輔監督／『汝、星のごとく』藤井道人監督／『Last Dance～最後の遊戯～』村川 透監督／『急に具合が悪くなる』濱口竜介監督 等

【海外映画祭出品作品】

『ゴジラ-1.0』山崎 貴監督:第96回アカデミー賞視覚効果賞／『旅と日々』三宅 唱監督:第78回ロカルノ国際映画祭金豹賞&ヤング審査員賞／『遠い山なみの光』石川 慶監督、『恋愛裁判』深田晃司監督:第78回カンヌ国際映画祭／『急に具合が悪くなる』濱口竜介監督、『黒牢城』黒沢 清監督:第79回カンヌ国際映画祭

公開済作品 一部

【エンターテインメント作品】

『お嬢と番犬くん』小林啓一監督／『男はつらいよ お帰り 寅さん』山田洋次監督／『記憶にございません!』三谷幸喜監督／『35年目のラブレター』塚本連平監督／『シン・ウルトラマン』樋口真嗣監督／『シン・仮面ライダー』庵野秀明監督／『ザ・ファブル 殺さない殺し屋』江口カン監督／『そして、パトンは渡された』前田 哲監督／『ディア・ファミリー』月川 翔監督／『翔んで埼玉～琵琶湖より愛をこめて～』武内英樹監督／『ハケンアニメ!』吉野耕平監督／『プレイブ 群青戦記』本広克行監督／『ラゲリより愛を込めて』瀬々敬久監督 等

【インディペンデント系作品】

『ある船頭の話』オダギリジョー監督／『Winny』松本優作監督／『エゴイスト』松永大司監督／『殺さない彼と死なない彼女』小林啓一監督／『最後まで行く』藤井道人監督／『さかなのこ』沖田修一監督／『月』石井裕也監督／『罪と悪』齊藤勇起監督／『でっちあげ～殺人教師と呼ばれた男』三池崇史監督／『箱男』石井岳龍監督／『ミッシング』吉田恵輔監督／『よこがお』深田晃司監督 等

【時代劇作品】

『鬼平犯科帳 血闘』山下智彦監督／『碁盤斬り』白石和彌監督／『シサム』中尾浩之監督／『室町無頼』入江 悠監督／『雪の花～ともに在りて～』小泉堯史監督 等

学生向けオンラインセミナー全2回

撮影現場での実習と学校での授業を補完し、学生が現場スタッフの業務をより広く深く理解するために、映画業界の第一線で活躍するプロフェッショナルを講師に迎え、全国の学生も参加できるようオンラインで開催。受講後アンケートでは「映画業界に進みたくなった」92%と高評価を得ました。

① 映画制作の裏側を知ろう～制作部のお仕事編

2025年2月3日 講師:牧野内知行 参加95名

② 映画制作の裏側を知ろう～美打ち(美術打ち合わせ)編

2025年3月9日 講師:実習作品『ほどなく、お別れです』スタッフ3名 片平大輔プロデューサー(TOHOスタジオ)、美術:花谷秀文、VFX:鎌田康介 参加101名

京都映画企画市

京都府 委託事業

京都映画企画市

時代劇の拠点、京都にて開催する
時代劇映画のオリジナル企画コンテスト
優秀映画企画は、太秦の撮影所にて
パイロット版制作

映画企画コンテスト

【開催日】2025年10月4日 ハートピア京都

京都にて時代劇・歴史劇企画を映像化できる映画企画コンテストを開催。新しい才能の企画実現の仕組みづくりを目的として、映像製作者を対象に京都府内での撮影を想定した時代劇ジャンルの作品企画を募集。書類選考を通過した5企画のプレゼンテーションを行い、業界の第一線で活躍する犬童一心監督、矢島 孝プロデューサー(松竹)、和田 隆プロデューサー(映画.com)が応募企画を審査しました。冒頭には京都府 西脇隆俊知事が開会挨拶を行いました。優秀映画企画に選ばれた『語り葉帖』(緑茶麻悠&佐伯龍蔵:監督・脚本)には、350万円相当のパイロット版映像制作の権利が付与され、東映京都撮影所にて撮影が行われました。



企画市パイロット版から長編化実現 2016年度優秀映画企画『黒の牛』(蔦 哲一朗監督)が遂に公開

日本・アメリカ・台湾の国際共同製作により初長編化が実現。台湾の名優リー・カンションを主演に迎え、日本人キャストは田中 滉、音楽は故・坂本龍一と国際色豊かなキャスト・スタッフが集結。第49回香港国際映画祭にて日本映画史上初の最高賞「Firebird Award」を受賞、日本国内では満を持して2026年1月に公開されました。



左より 須森隆文、田中 滉、リー・カンション、蔦 哲一朗監督



©NIKO NIKO FILM / MOOLIN FILMS / CINEMA INUTILE / CINERIC CREATIVE / FOURIER FILMS

映画企画相談会

【開催日】2025年9月13日(オンライン)

最前線で活躍する久保田 傑プロデューサー、永井拓郎プロデューサーから企画作りのノウハウを学ぶことができる企画相談会をオンラインにて実施しました。

VIPO Film Lab

自主事業



グローバルな視野を持ち国内外で活躍できるプロデューサー、監督、脚本家など業界プロフェッショナルを育成する場、それが「VIPO Film Lab」です。実践トレーニング、ワークショップ、オンライン講座など、目的別に様々な人材トレーニングを行っています。

1. 国際プロデューサーコース(Netflix協賛)

国際的に活躍する若手プロデューサー育成のため、国内外の経験豊富な業界エキスパートや現役で活躍するプレイヤーを講師陣に迎え、即実践で活用できる基本的な知識やテクニックを身につけることを目指し開催しました。

【開催期間】2025年8月～12月(全10回)

【講義内容と講師】

- 「映画祭とは、映画祭の活用方法」矢田部吉彦(前東京国際映画祭ディレクター)
- 「海外の企画マーケットについて」Alessandro Gropplero(FVG Audiovisual Fund)
- 「海外PRの役割」高松美由紀(フリーストーンプロダクションズ代表)
- 「国際共同製作におけるリーガルリテラシー」石堂瑠威(TMI総合法律事務所 パートナー弁護士)
- 「国際共同製作概略」水野詠子(映画プロデューサー)
- 「セールスエージェントの役割」Yohann Comte(chairman&co-founder, Charades)
- 「国際共同製作の多様性」福間美由紀(プロデューサー)
- 「脚本開発における戦略とツール」Clare Downs(EAVE スクリプト・アドバイザー)
- 「海外向け企画ピッチングについて」Shrihari Sathe(映画プロデューサー、ニューヨーク大学ティッシュ・スクール・オブ・ジ・アーツ講師)
- 「アジアの国際共同製作支援について」Doohee Park(韓国)、Patrick Mao Huang(台湾)、Alemberg M. Ang(フィリピン)、Yulia Evina Bhara(インドネシア)、Tan Si En(シンガポール)

【参加者】国際的な活躍を目指す若手プロデューサー(20名程度)



2. 映画の企画脚本講座(第4弾)

本講座では、受講者が温めているオリジナル企画を映画としてどのように具現化させていくかにについて、講師が実体験に基づき、シナリオ創作に関するレクチャーを交えながら各受講者にアドバイスしました。また受講者同士によるフィードバックも行いました。

【開催期間】2025年10月6日、7日(2日間)

【講師】加藤正人(脚本家・映画『クライマーズ・ハイ』『凪待ち』『墓盤斬り』)

【参加者】脚本家、映画プロデューサー、映像制作に携わる方



人材育成

3. 監督コース（Netflix協賛）

フランス国立映画学校（FEMIS）をはじめ世界中で教鞭をとるプリス・コヴァン氏を講師に招き、世界基準の映画表現や専門知識をワークショップ形式でレクチャー。日本の教育現場ではなかなか触れられない実践的でロジカルな指導は、撮影現場でも即座にかつ大いに活かすことができると、参加者からは大変好評を博しました。初日の講義はオンライン併用の公開講座として実施し、より多くの方に高度な演出についての学びを提供しました。

【開催期間】2026年3月2日～6日（5日間）

《オンライン併用の公開講座》演出についての講義

《実習ワークショップ》俳優との演技の組み立て・撮影・ラッシュ講評

【講師】プリス・コヴァン

【参加者】植木咲楽監督、保谷聖耀監督、柳 明日菜監督、ヤング・ポール監督（公開講座参加者：38名）



4. 映画の企画開発講座（第5弾）

受講者の各企画案に対して、池端講師とモデレーターの篠原氏から、それぞれ脚本家とプロデューサーの観点で、人物造形や物語の課題点などについて指導を行いました。受講者はその指導を受けて企画案を練り直し、最終日にさらに深い講評会が実施されました。

【開催期間】2026年3月12日、13日、26日（3日間）

【講師】池端俊策（脚本家）

【モデレーター】篠原 圭（NHKエンタープライズ）

【参加者】脚本家、プロデューサー、映像制作に携わる方など



5. NY脚本ワークショップ（Netflix協賛）

コロンビア大学スクール・オブ・アーツ脚本講師の招聘や映画プロデューサーらを迎え、対面およびオンラインでの脚本および個別指導による集中的な脚本指導を行いました。一般公開含む脚本講義や脚本へのフィードバック指導を通して脚本のさらなるブラッシュアップを図り、脚本の映画化を目的とした実践的なプログラムを提供しました。

【開催期間】2025年12月～2026年3月

【参加者】・脚本ワークショップ：金子由里奈監督、中西 舞監督、畠山佳奈監督

・一般公開講義：約40名の監督・脚本家等



6. リスペクト・トレーニング（Netflix共催）

日本のエンターテインメント業界の労働環境改善に向けた取り組みとしてNetflixが実施している「Respect Training（リスペクト・トレーニング）」を、前年度にひきつづき、2025年度も実施。映像作品の制作現場の方だけではなくコンテンツ業界を中心として広く多くの方が参加できるかたちで開催しました。

【開催期間】2025年4月～12月（全16回）

【講師】田中秀憲（ピースマインド株式会社）

【参加人数】509名（全16回）



7. 奈良橋陽子氏による 「俳優のためのセルフ・テープ オーディション対策講座」（第2弾）

海外作品のオーディションで用いられる「セルフ・テープ」のポイントを押さえながら、英語もしくは日本語のシーンに沿ったきめ細やかな演技指導により、それぞれの俳優の隠れた才能を発揮させるワークショップを実施しました。

【開催期間】2025年10月19日、25日、26日（3日間）

【講師】奈良橋陽子（ユナイテッド・パフォーマーズ・スタジオ[UPSアカデミー] 芸術監督／演出家／プロデューサー／作詞家）

【参加者】経験のある俳優業の方（高校生以上）



（敬称略）

人材育成/海外展開・市場開拓

クリエイター等支援事業（育成プログラム構築・実践）
ゲームの海外展開に向けた
実践的・社会人育成支援プログラム
「Global Game Growth Gateway」

新規事業 文化庁／日本芸術文化振興会／IGDA日本 委託事業



<https://www.gggg-project.jp/>

「Global Game Growth Gateway」とはゲームの主要市場である北米、欧州、中国の3地域に重点を置き、海外市場の第一線で活躍する専門家によるオンライン講義、海外イベント視察、販売実践としてのゲームストアでの共同展示の3つの施策を実施するプログラムです。プログラム指導者および外部有識者による選考を経た、日本国内のゲーム会社の海外販売・マーケティング担当者10名に対して海外販売に必要な実践的な知識・ノウハウを習得できる機会を提供します。また、海外のメディア・インフルエンサー等との関係構築も目指しています。

海外ゲームマーケティングに関するオンライン講義の実施

海外ゲームマーケティングの専門家を講師に招き、海外でのゲーム販売に関するオンライン講義を実施しました。中華圏・欧米圏の市場特性を踏まえたマーケティング戦略やコミュニティ形成の基礎について講義いただきました。

【講義回数】7回

【主なテーマ】中華圏マーケティングの基礎、欧米圏マーケティングの基礎、海外イベント視察の事前準備など

海外ゲームイベント視察および現地企業とのミーティングの実施

主要な海外ゲームイベントの視察と、現地のゲーム会社やPR会社、メディア等とのミーティングを実施しました。

●WePlay Expo視察（上海）

【開催期間】2025年11月22日～25日

【内容】会場視察、現地パブリッシャー・投資会社等への訪問

●GDC / Festival of Gaming視察（サンフランシスコ）

【開催期間】2026年3月10日～14日

【内容】会場視察、現地パブリッシャー・プラットフォーマー等とのミーティング



海外視察報告会および公開セミナーの開催

プログラムを通じて得られた実践的知見を国内のゲーム業界関係者へ還元するため、一般公開の報告会や海外有識者を招いたセミナーを開催しました。

●WePlay Expo報告会

【開催日】2025年12月23日

【内容】1. WePlay Expo視察報告
2. 視察参加者によるクロストークセッション

●公開セミナー「グローバル市場を見据えたゲームパブリッシングの最善策」

【開催日】2026年1月22日

【内容】1. Steamで成功するために準備すべきこと
2. グローバル市場においてターゲット層のニーズを把握する方法
3. 開発したゲームの露出機会を見つける方法

【講師】ジュリア・ケニー

本事業は、文化庁の補助金により独立行政法人日本芸術文化振興会に設置された文化芸術活動基盤強化基金「クリエイター等支援事業（育成プログラム構築・実践）」において、特定非営利活動法人国際ゲーム開発者協会日本（IGDA日本）が実施し、VIPOが事務局を務めています。



人材育成/海外展開・市場開拓

Film Nexus-PRO

新規事業 文化庁／日本芸術文化振興会 補助事業



本事業は、日本映画制作適正化機構等と連携し映画制作に関わるスタッフの定量・定性調査を行い、その結果に基づいて「中堅クリエイター育成プログラム」と「映画技術スタッフ向けリスキリングプログラム」を開発・実施する3年間の事業です。これにより、クリエイターや技術スタッフのスキルを国際水準に引き上げ、日本映画の海外展開や国際共同製作、海外プロダクションの日本ロケ撮影を支える人材を育成することを目的としています。1年目となる2025年度は、基礎調査の実施の他、海外教育機関と連携したプログラムの企画開発と参加者の募集と選考、またジャパン・フィルムコミッションと制作部向けのロケ撮影のリスキリングプログラムを実施し、計30名が参加しました。

実施概要

- 映画制作スタッフの現状やニーズの把握に向けた基礎調査
- IFAマスタークラス、ワイドスクール共同WS「DREAMS 2026」、国際脚本メンターシッププログラムの開発、参加者募集と選考
- 制作部向けロケ撮影のリスキリングプログラム

本事業は、文化庁の補助金により独立行政法人日本芸術文化振興会に設置された文化芸術活動基盤強化基金「クリエイター等支援事業（育成プログラム構築・実践）」になります。

主催 VIPO

助成 文化芸術活動基盤強化基金 (Japan Creator Support Fund)



制作部向けロケ撮影のリスキリングプログラム

Film Nexus-SEED

新規事業 文化庁／日本芸術文化振興会 委託事業



グローバルに活躍できる人材を育成する「クリエイター等支援事業（育成プログラム構築・実践）」を受託。3年事業の1年目となる2025年度は、特に国内の映画・映像を教える教育機関の定量・定性調査を70校程度を対象に実施しました。またオーストラリア・グリフィス大学フィルム・スクールでは、国内で映画を学ぶ学生が海外フィルム・スクールにおいて映画制作の基礎をひと通り学習し、国内教育機関との違いを体験し学習するワークショップを実施しています。また既卒3年以内を含む優秀な学生をより高度なステージで育成するアドバンス・コースとして、「カンヌ国際映画祭」と共同で育成プログラム研修を企画、次年度実施予定であり、育成対象者の選考までを本年度実施完了しました。

実施概要

- 国内の映画・映像を教える教育機関の定量・定性調査（70校程度対象）
- オーストラリア・グリフィス大学フィルム・スクールにおける映画制作ワークショップ研修
- カンヌ国際映画祭Cinéma de Demainにおける研修（実施は次年度を予定）

本事業は、文化庁の補助金により独立行政法人日本芸術文化振興会に設置された文化芸術活動基盤強化基金「クリエイター等支援事業（育成プログラム構築・実践）」になります。

主催 文化庁／日本芸術文化振興会／VIPO

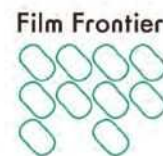


グリフィス大学フィルム・スクールにおける映画制作ワークショップ

人材育成/海外展開・市場開拓

フィルム・フロンティア 滞在型企画開発

文化庁／日本芸術文化振興会／ユニジャパン 委託事業



文化庁の補助金によって「文化芸術活動基盤強化基金」が独立行政法人日本芸術文化振興会に設置され、次代を担うクリエイター等の挑戦・育成を支援することを目的とした人材育成プログラム事業。3年事業の中、2年目となる本年度は海外レジデンスとして現地で企画開発を中心に活動を行い、レジデンス前には育成のための講義を計4回実施しました。最終年度となる2026年度は、主に企画マーケット、ラボ等への派遣を実施します。

レジデンス前講義

「国際映画祭/フィルム・マーケット概観」
「世界の企画マーケットとラボについて」
「Improve Your Global Film Business Skills (全2回)」

海外レジデンス

飯塚陽美監督 (ニューヨーク 9月15日～10月4日現地滞在)
佐久間啓輔監督 (プチョン 6月10日～オンライン準備、6月30日～7月10日現地滞在)
早川千絵監督 (パリ 8月6日～28日現地滞在)
山下つぼみ監督 (パリ 7月18日～8月7日現地滞在)
2025年度 レジデンス派遣、企画マーケット等への参加準備

海外レジデンスの様子



飯塚陽美監督 (ニューヨーク)



山下つぼみ監督 (パリ)



早川千絵監督 (パリ)



佐久間啓輔監督 (プチョン)

本事業は文化庁の補助金によって独立行政法人日本芸術文化振興会に設置された文化芸術活動基盤強化基金「クリエイター等育成プログラム 映画分野」において、公益財団法人ユニジャパンが実施し、VIPOが事務局を務めています。

令和7年度文化庁 「国際文化交流・協力推進事業」 (TICAD9関連イベントに係る調査及び企画運営実施業務)

新規事業

文化庁 委託事業

日本の文化コンテンツの代表格であるマンガについて、アフリカ諸国のマンガ文化の調査と、第9回アフリカ開発会議 (Tokyo International Conference on African Development : 略称 TICAD9) における展示、アフリカ諸国のマンガ関係者の招聘等を行いました。日本・アフリカ間の文化及び人材交流を深化させるとともに、アフリカで関心が高まりつつある日本のマンガの将来的な展開につなげることを目的としています。

第9回アフリカ開発会議 (TICAD9) における事業実施

第9回アフリカ開発会議 (TICAD9) において、パネル展示およびシンポジウムを開催しました。両施策のテーマを連動させることで、マスコミ各社からの取材を受けるなど大きな反響を呼びました。好評につき、アーカイブ動画の公開も行っております。

① パネル展示「アフリカ諸国におけるマンガ産業とその市場について」

【開催期間】2025年8月20日～22日 【会場】パシフィック横浜 展示ホールD (ブース番号:B-3)

【展示内容】

1. アフリカの漫画家紹介 (敬称略)

- Younes El haroussi (モロッコ出身・在住) ● Jean Bindjouli (カメルーン出身・セネガル在住)

2. アフリカのマンガ事情解説

- フランス語圏アフリカのマンガ文化とファンの実態 ● アフリカ人作家による自国を舞台とした物語の潮流

3. 漫画家たちのリアルな声 (ヒアリング調査)

- ナイジェリア出身の漫画家2名、およびケニア出身の漫画家1名へのインタビュー内容を展示



(敬称略) 16

海外展開・市場開拓

②シンポジウム「アフリカ諸国におけるマンガ産業とその市場について」

【開催日】2025年8月21日 【会場】パンフィコ横浜 展示ホールD(ステージ番号:S-05)

【使用言語】日本語・フランス語(同時通訳あり)

【登壇者】

- ・赤松 健(漫画家／参議院議員／文部科学大臣政務官 兼 復興大臣政務官)
- ・Younes El haroussi(漫画家)
- ・Jean Bindjouli(漫画家)
- ・ユー・スギョン(モデレーター／マンガ研究者・京都精華大学国際文化学部 専任講師)



アフリカ5か国におけるマンガ市場調査

2025年12月、アフリカ現地のマンガ市場の実態を把握するため、主要5か国での現地調査を実施しました。調査終了後、その結果を共有する報告セミナーを開催したところ、アフリカ市場への展開に関心を寄せる企業・個人など70名以上の方々にご参加いただき、盛況を博しました。本セミナーについても、現在アーカイブ動画を公開しております。

【調査対象国・都市】

- ・南アフリカ(ヨハネスブルク、ケープタウン) ・ケニア(ナイロビ) ・ナイジェリア(ラゴス)
- ・モロッコ(カサブランカ、ラバト) ・エジプト(カイロ)

【主な調査項目】

- ・市場特性、価格帯、使用言語、販売チャネル(書店、モール、EC等)
- ・海賊版・検閲の状況、現地で人気の日本マンガ作品、ファンダムの動向等

【調査員】

- ・古里卓巳(ルーディス株式会社 最高執行責任者)
- ・佐藤 翔(ルーディス株式会社 代表取締役)



活字文化の グローバル展開推進事業

文化庁 委託事業

日本の多様で豊かな活字文化を海外へ発信・普及させるためのプロジェクトを推進しました。海外発信の基盤となる翻訳家の発掘・育成を行うとともに、出版社等による作品の海外展開を促進し、あわせて、世界の文学関係者、出版関係者等を対象に、日本の活字文化の理解をより深めるための活動を実施。これらの活動を通じて、日本書籍の翻訳家を支援するとともに、日本の書籍が数多く翻訳され、海外での普及が促進することを目指しました。

海外における日本書籍の出版・流通に向けた翻訳助成事業

日本の出版社の海外展開を支援することを目的に、日本の書籍を海外にライセンスアウトする際の営業や交渉において必要となる企画書の翻訳・作成とサンプルの翻訳に係る費用の助成事業を実施しました。助成を受けた書籍から海外での出版契約が決まる成功事例が続々と増えています。



出版社向けセミナーの開催

出版社を対象とした、日本書籍の海外展開に必要な知識・ノウハウについて提供する実践的なセミナーを、一般社団法人日本書籍出版協会との共催で開講しました。

実施概要

【開催日】2025年7月17日

【講師】Kaja Murawska(ライツビジネス・事業開発部長)

【テーマ】アメリカとイギリスへの版權輸出～世界の翻訳出版市場における日本書籍のルネサンス～



(敬称略)

人材育成/海外展開・市場開拓

「フランクフルト・ブックフェア2025」における商談会の実施

2025年10月15日～19日に開催された「フランクフルト・ブックフェア2025」において、ドイツ等での翻訳出版を目指す日本の事業者とドイツ等の出版社との商談会を開催しました。3回目となる2025年は、ドイツの他、UK、スイス、フランスの出版社も参加し、過去最多となる合計34件のミーティングが行われました。なお、過去2年の本商談会をきっかけに、2作品が翻訳出版されました。



「文化庁翻訳コンクール」および「国際文芸フォーラム2026」の開催

日本の優れた文学作品を翻訳して世界に発信し、文学水準の一層の向上を図るとともに、将来を担う翻訳家の育成等を目的として、「第10回文化庁翻訳コンクール」を開催しました。また、第9回の受賞者を対象に、文芸翻訳家を目指す方々のスキルアップ等を目的としたワークショップと出版セミナーを実施。さらに、「第10回文化庁翻訳コンクール」の授賞式および記念シンポジウム「国際文芸フォーラム2026」(BUNGAKU DAYSから名称変更)を開催しました。過去最大規模での開催となり、日本文学に携わる方々や翻訳家、出版関係者をはじめ、日本文学に関心を持つ一般の方々まで、幅広い層に來場いただき、盛況のうちに終了しました。また、多くのメディア関係者にも取材いただき、日本文学および翻訳事業への関心の高さがうかがえるフォーラムとなりました。なお、「第11回文化庁翻訳コンクール」は、2026年5月1日より募集受付を開始し、対象言語は、現代文学部門は英語とフランス語、古典文学部門は英語となります。

■「国際文芸フォーラム2026」

開催概要

【開催日】2026年2月12日

【会場】御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター

プログラム

- ・第10回文化庁翻訳コンクール授賞式
- ・シンポジウム

第I部『作家×翻訳家の共鳴力 ～世界に向けて「推し」を叫ぶ～』

第II部『文芸のポテンシャル
～作家と語るグローバルビジネスのフロンティア～』



マンガ受容度調査の実施

海外の図書館で多くの日本マンガが読まれている現状を踏まえ、昨年度のアメリカに引き続き、今年度はフランス、スペインの図書館における日本マンガの調査を実施しました。2月中旬にはマンガの海外展開に関心のある国内出版社に向けて2カ国の調査結果をもとにセミナーを実施し、希望者にはアーカイブ映像の配信も行いました。

■セミナー実施概要

開催概要

【開催日】2026年2月10日

プログラム

パート1 フランスの公共図書館におけるマンガの状況

【登壇者】マシュー・ピノン ※対面参加

パート2 スペインの公共図書館におけるマンガの状況

【登壇者】マルク・ベルナベ、ベロ・カラフェル、オリオル・エストラダ、フェラン・カノ ※オンライン参加



(敬称略) 18



人材育成

ビジネススキルの習得だけでなく ジャンルを超えてともに学んだ受講者によるネットワークは 新しいビジネスへのきっかけになっています

VIPOアカデミーは2015年度にスタートしたコンテンツ業界のリーダー育成を目的とした人材育成事業で業界向けにカスタマイズしたプログラムを実施しています。経営幹部人材を育成する「コーポレートリーダーコース」と、現場のマネジメント力を強化する「プロジェクトリーダーコース」は、スキルアップや受講者同士のネットワーク構築に加え、企業間のコラボレーションのきっかけの場になりました。また、新規事業立ち上げの基礎となる考え方を学ぶ「ニュービジネスデベロップメントコース」、グローバルシーンでのコミュニケーション力を磨く「グローバルビジネスコース」、法律や会計の知識を学ぶ「リーガ

ル・エッセンシャルコース」「アカウンティング・エッセンシャルコース」、コンテンツ業界各ジャンルの基礎的な知識を横断的に習得できる「業界研究ベーシックコース」を含め、現在、全7コースを開講しています。2025年度は会場開催を増やし、コースや講座内容の特性に合わせ一部オンラインにて実施いたしました。1年間で延べ48社113名(※)に受講いただき、開講以来の累計は179社1,114名となりました。

※業界研究ベーシックコースの単発受講者を除く

2025年度開講内容

コーポレートリーダーコース
対象:管理職の方

講義と演習、グループ活動を通して、経営戦略、ビジネスアカウンティング、ビジネスプランニング、プレゼンテーション、リーダーシップの知識やノウハウを身につけることで、企業の成長・発展に貢献するコーポレートリーダー(経営幹部人材)を育成します。

第21期
2025年5月10日～8月28日およびフォローアップ2026年2月5日
第22期
2025年9月6日～12月11日およびフォローアップ2026年6月4日

プロジェクトリーダーコース
対象:中堅社員の方

講義と演習、グループ活動を通して、企画力(ロジカルシンキング、ビジネスアカウンティング、発想力)と推進力(プロジェクトマネジメント、リーダーシップ、プレゼンテーション)を強化することで、クオリティとスピードを両立させ、周囲を巻き込んでプロジェクトを成功に導くプロジェクトリーダーを育成します。

第19期
2025年5月17日～8月5日およびフォローアップ2026年2月6日
第20期
2025年9月13日～12月9日およびフォローアップ2026年6月5日

経営者講演会

コーポレートリーダーコース、プロジェクトリーダーコース受講者向けの特別講演会を実施しました。

<2025年春期>
登壇者 夏野 剛
株式会社KADOKAWA
取締役 代表執行役社長

<2025年秋期>
登壇者 石川光久
株式会社IGポート
代表取締役社長／
株式会社
プロダクション・アイジー
代表取締役会長

最終発表審査会/成果発表会



※2025年はオンラインで実施しました

コーポレートリーダーコースおよびプロジェクトリーダーコースでは、コース最終日に業界各社の経営層から受講者の上司、政府関係者まで、多くの方にお集まりいただき、受講者から学びの成果を発表しました。

ニュービジネスデベロップメントコース
～新規事業のはじめ方講座～
対象:新規事業の検討を求められている方、
ビジネスアイデアを具体的なプランに落とし込めていない方

新規事業立ち上げの基礎となる考え方を学習し、演習(個人およびグループディスカッション)を通じて具体的な新規事業の計画策定の流れについて理解します。

第2期 2025年4月11日～25日



業界研究ベーシックコース
対象:コンテンツ業界各ジャンルの基礎知識を習得したい方

ジャンルを超えたコンテンツビジネスを生み出すために、コンテンツ業界の各ジャンル(キャラクター・ゲーム・出版・アニメ・映画・放送/配信・音楽)のマーケットやビジネスモデルを理解し、それぞれの展開事例(主にジャンルを超えた展開事例および海外展開事例)を学びます。

第13期 2026年1月14日～3月11日



リーガル・エッセンシャルコース

<基礎編>
対象:契約や知的財産法についての基本的な知識を身につけたい方、
法務部門における経験が1年程度の方向け
法律の枠組みや法的考え方の基本、著作権や商標を中心とした映像コンテンツビジネスにまつわる知的財産権制度の概要、契約締結交渉時の勘所などの基礎を身につけます。

基礎編 第5期 2025年6月3日～17日

<実践編>
対象:契約や知的財産法についての基本的な理解がある方、
法務部門所属または契約実務者としての経験が1年以上の方向け
コンテンツビジネスにまつわる契約実務について、各回の前半は講義により知識を整理し、後半は模擬事例をもとにしたグループディスカッションを行うことで、実践に役立つ考え方を身につけます。

実践編 第4期 2025年7月8日～22日

グローバルビジネスコース
対象:仕事において英語を使用し、コミュニケーションを行う方、英語で自身のアイデアを効果的に伝える力を向上させたい方

<プレゼンテーション編>
実践を重視した講義(英語・日本語)と英語での演習を通して、ビジネスシーンで日常的に行われている様々なプレゼンテーション(ビジネスプレゼン、セールスピッチ、取引先との交渉、上司・同僚への提案など)において、自信を持って効果的に自身の考えやメッセージを伝えるスキルと知識を学びます。

<異文化理解力と交渉力強化編>
異なる文化や背景を持つ相手と円滑にコミュニケーションを取り、信頼を深めるために、必要な知識と有効なフレームワークや分析ツール、表現方法を学び、交渉力・コミュニケーション力の向上を目指します。

インハウス研修を提供

公開7コース以外にも、企業のニーズに合わせてカスタマイズできるインハウス研修を実施しています。リーダーシップ、新規事業の立ち上げ、著作権法など、さまざまなプログラムのご提供が可能です。

インハウス研修の詳細は
VIPOアカデミーの公式サイトをご覧ください。
https://vipo-academy.jp/in-house_training/

実施実績		
リーダーシップ系プログラム	リーダーシップ研修	キャラクター業界、音楽業界ほか
	ビジネスプランニング研修	映画業界
思考系プログラム	ロジカルシンキング研修	音楽業界
その他のプログラム	デジタルマーケティング研修	ゲーム業界
	英文ビジネスライティング研修	映画業界
	セールスピッチ研修	テレビ業界、映画業界
	リーガル知識研修	映画業界、広告業界
	リーガル研修<基礎編>	キャラクター業界
	ファイナンス・エッセンシャル研修	音楽業界
	CS向上研修	映像業界

**VIPOアカデミーの公式サイトでは、
インハウス研修や各コースに関する詳しい情報に加え、
人材育成に役立つ情報等を発信しています。**

「VIPOアカデミー」の公式サイトURL
<https://vipo-academy.jp/>
「VIPOアカデミー」の公式X
https://twitter.com/VIPO_ACADEMY



VIPO Film Award事業

自主事業

「NAFF It Project」(プチョン国際ファンタスティック映画祭:2025年7月4日～8日)、「APM」(釜山国際映画祭:2025年9月20日～23日)、「CineMart」(ロッテルダム国際映画祭:2026年2月1日～4日)といった、3つの国際映画祭マーケット事務局とのパートナーシップのもと、各企画マーケットにて、1つの優秀企画に「VIPO Film Award」を授与しました。

「VIPO Film Award」の目的は、日本との国際共同製作を目指す海外プロデューサーや監督の発掘と、現在進行形の企画トレンドを掴み、日本での企画開発に活かしていくこと、さらには海外マーケット事務局との提携・連携により、日本企画と海外マーケットとの懸け橋となることです。

2025年度 VIPO Film Award 受賞企画

■「NAFF It Project」

- 企画名:「Brilliant Melody」
- 製作国:フィリピン、フランス
- 監督:Carlo Francisco MANATAD
- プロデューサー:Chad Angelic CABIGON (NextLives)、Yulia Evina BHARA(Kawan Kawan Media)



■「APM(Asian Project Market)」

- 企画名:「Wake Me up When the Mourning Ends」
- 製作国:マレーシア・香港・中国・イタリア・台湾
- 監督:LAU Kok Rui
- プロデューサー:Soi CHEANG、Stefano CENTINI、WONG Kew Soon



■「CineMart」

- 企画名:「Neon Phantom」
- 製作国:ブラジル
- 監督:Leonardo Martinelli
- プロデューサー:Felipe M. Bragança、Marina Meliande



また、「NAFF It Project 2022」(プチョン国際ファンタスティック映画祭併設企画マーケット)で「VIPO Film Award」を受賞したニコラス・レッド監督の企画『POST HOUSE』が完成し、「第21回大阪アジア映画祭」で特別上映されました。監督とプロデューサーが来日し、上映後にはQ&Aも行われました。



(敬称略)

カンヌ監督週間 in Tokio 2025

自主事業

カンヌ国際映画祭の独立部門「監督週間」
2025年のオフィシャルセレクションを
いち早く日本で上映!



第78回カンヌ国際映画祭の独立部門である「監督週間(Quinzaine des Cinéastes/Directors' Fortnight)」オフィシャルセレクション作品を日本でいち早く上映する「カンヌ監督週間 in Tokio 2025」を2025年12月12日～25日にヒューマン・トラスト・シネマ渋谷にて開催しました。3回目の開催となった本事業では、2025年のカンヌ国際映画祭「監督週間」にて上映された11作品に『かぐや姫の物語』(2014年「監督週間」正式出品)を加えた12作品を上映。すべての海外作品に日本語字幕をつけ、邦画作品では英語字幕版を上映しました。

今回もアーティスト・ディレクターのジュリアン・レジが来日し、ゲストを迎えてのトークイベントを実施。『国宝』より李相日、吉沢 亮、横浜流星、『見はらし世代』より団塚唯我、井川 遥、『かぐや姫の物語』より朝倉あきが登壇し、カンヌはじめ世界からの評価や映画祭での思い出など、ここでしか聞けないトークセッションが実現しました。さらに『Yes』のナダヴ・ラピドがオンラインで登壇し、深いトークや観客の皆さんとのQ&Aが行われました。



また、フランス大使館の支援によりイベントの企画・運営にも注力しました。『ハッシュ!』(2001年「監督週間」正式出品)上映と橋口亮輔、田辺誠一によるトークや「自由なる映画たち〜7本の映画でたどる「カンヌ監督週間」〜」と題した特集上映を東京日仏学院エスパス・イマージュにて開催し、コラボレーション企画として大きな盛り上がりを見せました。

唯一無二のセレクションを届ける「カンヌ監督週間 in Tokio 2025」は2週間で過去最多となる約2,000人の動員を記録し、日本とカンヌ「監督週間」を繋ぐ機会として発展し続けています。

「カンヌ監督週間 in Tokio 2025」概要

【開催期間】2025年12月12日～25日 【会 場】ヒューマン・トラスト・シネマ渋谷

【主 催】監督週間(Quinzaine des Cinéastes/Directors' Fortnight)/特定非営利活動法人映像産業振興機構(VIPO)

【共 催】東京テアトル株式会社

【特別協力】三菱UFJフィナンシャル・グループ/株式会社ティーワイリミテッド

【協 力】AKIRA H/株式会社IMS Group/株式会社平成プロジェクト/株式会社セレモニー/
金延宏明(ノブ・ピクチャーズ)/在日フランス大使館/アンスティチュ・フランス

【上映作品】※海外作品は英語タイトル『The President's Cake』/『国宝』/『見はらし世代』/『Yes』/『The Girl in the Snow』/『Mirrors No.3』/『Wild Foxes』/『Her Will Be Done』/『Peak Everything』/『The Party's Over!』/『Sorry, Baby』/『かぐや姫の物語』

(敬称略) 22

コンテンツ業界向け セミナー&ワークショップ

自主事業

コンテンツ業界向けに特化した人材育成を
メインにセミナーやワークショップを開催

セミナー 福井健策弁護士 コンテンツ法律セミナー

第19弾 「漫画・アニメの著作権・法務トラブル対処法講座」

漫画・アニメは日本のソフトパワーの象徴であり、いまや日本の基幹産業と呼ばれるまで期待が大きくなりました。産業規模が拡張している最中で、著作権侵害や法務上のトラブルが多くなっています。本講座では漫画・アニメに関するいくつかの課題について事例を含めて解説し、その対処法について解説していただきました。



福井健策

第20弾 「音楽著作権の基礎と2025年の最新動向」

音楽はコンテンツ価値を左右する強力な要素ですが、権利処理を誤れば事業全体に深刻な損害を与えます。2025年の今、音楽著作権の実務はどのように変わりつつあるのか。最新の法改正動向を踏まえ、音楽著作権の基礎から、実務で本当に役立つ知識を整理し、解説していただきました。



開催期間 2025年5月21日(第19弾)、12月17日(第20弾) リアル開催

講師 福井健策(弁護士[日本・ニューヨーク州]／神戸大学大学院・日本大学芸術学部・CATほか客員教授)

ワークショップ アクターズ・ワークショップ

映画においてリアリティのある演技を実践するための演技ワークショップを開催しました。小林監督には受講者ひとりひとりの演技について丁寧に指導いただき、受講者が自分の課題を見つけて、今後の演技のスキルアップにつなげられるような機会となりました。

開催期間 2025年6月3日、10日(2日間) リアル開催

講師 小林啓一(映画監督)



小林啓一

セミナー&ワークショップ 「声優とその志望者のための〈シナリオ読み方講座〉」

本講座は普段なかなか接点がないシナリオライターと声優が直接対話しながら、実際のシナリオを用いて、キャラクターやシーンの意図をどう読み解き、どう演じるかを一緒に掘り下げていきました。

開催期間 2025年9月4日、5日(2日間) リアル開催

講師 小林雄次(脚本家・小説家)



セミナー&ワークショップ 「オリジナルアニメの企画講座2026」

本講座では、受講者が持ち寄ったアイデアをグループワークを通じて多角的にブラッシュアップ。2日目には、各受講者が作成したプロットの発表会を行い、講師より実務的な視点からの講評をいただきました。

開催期間 2026年2月20日、27日(2日間) リアル開催

講師 小林雄次(脚本家・小説家)



小林雄次

セミナー 映画プロデューサー養成講座 基礎編 第10弾

「映画」を題材に映像コンテンツ製作に必要不可欠なプロデュースの基礎知識を集中的に学ぶ講座を開催しました。プロデューサーに求められる広義の知識を体系立てて学べる本講座では“脚本”に重点を置いており、受講者は、脚本を読んで理解するためのノウハウを中心に学びました。2日目の後半では、李相日監督と安藤講師との対談形式のセッションを行い、映画監督とプロデューサーの向き合い方など実践的な話をしていただきました。

開催期間 2025年11月27日、28日(2日間) リアル開催

講師 安藤紘平(早稲田大学名誉教授／映画監督)

ゲスト 李相日(映画監督)



安藤紘平



李相日監督(左)との対談

海外展開・市場開拓

令和6年度補正 クリエイター・事業者支援事業費補助金 (クリエイター・事業者海外展開促進) JLOX+

経済産業省 補助事業

コンテンツ産業の輸出拡大・海外展開の促進と、国際競争力強化を目的としたプロジェクト。日本発のIP、アニメ、ゲーム、マンガ、映画、音楽等のコンテンツや、先進的なコンテンツ技術等、複数の分野にわたり、海外の業界団体・機関・企業や国際的なイベントと連携し、世界市場・資金調達環境に関する深い理解に基づく助言や、海外事業者とのネットワーキング等の伴走支援を行いました。これにより、日本のコンテンツが持つ魅力と拡がり世界へ広く発信し国際取引活性化や新市場創出を図ります。

北京国際映画祭提携 日中韓アニメ・映画・テレビ業界 交流&企業訪問

【開催期間】2025年4月21日～24日 【会場】中国・北京



ファーイースト映画祭 FOCUS ASIA参加支援、脚本個別指導

【開催期間】2025年4月27日～5月1日 【会場】イタリア・ウディネ



カンヌ国際映画祭併設マーケット Marche du Film 2025 「Spotlight Asia」&「Producers Network」 (国際共同製作支援)+『ルノワール』ケーススタディ

【開催期間】2025年5月13日～21日 【会場】フランス・カンヌ



アヌシー国際アニメーション映画祭併設マーケット MIFA2025出展

【開催期間】2025年6月10日～13日 【会場】フランス・アヌシー



プチョン国際ファンタスティック映画祭併設 企画マーケット NAFF IT Project

【開催期間】2025年7月5日～8日 【会場】韓国・プチョン



gamescom 2025 ジャパンパビリオン出展

【開催期間】2025年8月20日～24日 【会場】ドイツ・ケルン



釜山国際映画祭併設見本市 Asian Contents & Film Market (ACFM)出展／ 「Asian Project Market (APM)」 「Producer Hub」 「Doc Square」

【開催期間】ACFM&APM 2025年9月20日～23日, Producer Hub & Doc Square 2025年9月20日～22日
【会場】韓国・釜山



釜山国際映画祭併設見本市「Busan Story Market 2025」出展

【開催期間】2025年9月20日～23日 【会場】韓国・釜山



A-Japan ビジネスマッチング 第5弾

【開催期間】2025年10月30日～2026年2月28日 【会場】オンライン 【協力】Amuse Group USA, Inc.

First Cut Lab Japan 2025

【開催期間】2025年11月10日～20日 【会場】オンライン



ロッテルダム国際映画祭併設プロデューサー養成ラボ 「Rotterdam Lab」

【開催期間】2026年1月31日～2月4日 【会場】オランダ・ロッテルダム



「世界標準の音楽ライセンス術 ～シンク・ビジネスセミナー第3弾： ライセンス戦略によって広がる新たな海外ビジネスチャンス～」

【開催日】2026年2月10日 【会場】VIPO



ベルリン国際映画祭併設マーケットEFM 「Visitors Programme Berlinale Co-Production Market」 参加支援

【開催期間】2026年2月13日～16日 【会場】ドイツ・ベルリン



コ・フェスタ (JAPAN国際コンテンツフェスティバル2025)

【開催日】2025年7月10日 【会場】日本・東京 ※認定イベント32

実写コンテンツの 製作人材の育成研修

新規事業

総務省／三菱総合研究所 委託事業

国内の放送事業者、番組製作会社等を対象に、世界水準の実写コンテンツ製作と海外展開に必要なノウハウやスキル向上を目指す「総務省令和7年度放送コンテンツの海外展開に向けた人材育成に係る調査研究の請負」の一環である「実写コンテンツの製作人材の育成研修」プログラムにおいて株式会社三菱総合研究所が実施し、VIPOが一部運営協力しました。特にドラマ製作人材を対象とした「世界基準のショーランナー&ドラマクリエイター育成」のうち2つの研修プログラムを実施しました。



世界基準を目指せ!ドラマクリエイター集中講座

【開催期間】2025年11月12日、13日、18日、20日、25日、26日

【プログラム内容】

事前学習(オンデマンド): 日本の海外展開の変遷(講師:杉山真喜人)

海外展開概論: ①世界の概況(講師:長谷川朋子) ②韓国の概況(講師:黄 仙恵)

世界のトレンド: ①プラットフォーム解説(講師:ウェンディ・バーンフェルド) ②ショーランナー解説(講師:スー・ヒュー)

ケーススタディ: ①国際共同製作(講師:アラン・プール) ②資金調達(講師:千野シンディ成子) ③リーガル(講師:金子剛大)
④ストーリーテリング(講師:山田兼司)

Kドラマヒットに学べ!韓国派遣研修

【開催期間】事前学習(オンライン):2026年1月13日 実地研修(韓国):2026年1月19日～21日

【プログラム内容】

①企業訪問・講義:5社 ②意見交換会:1社 ③スタジオ視察 ④ネットワーキングイベント(韓日ドラマナイト)

海外ビジネスマッチング

自主事業

コロンビアビジネスマッチング

【開催日】2025年9月3日 【会場】VIPO

【プログラム内容】

大阪万博関連事業の一環として南米コロンビア政府の投資促進機関であるPROCOLOMBIAからの依頼で、来日したコロンビア映画関係者と日本プロデューサーとのマッチングイベントを企画実施しました。



(敬称略)

ポーランドビジネスマッチング

【開催日】2025年9月29日 【会場】VIPO

【プログラム内容】

大阪万博関連事業の一環としてポーランド政府の映画機関であるPolish Film Instituteからの依頼で、来日したポーランド映画プロデューサーと日本プロデューサーとのマッチングイベントを企画実施しました。



日韓Producers Exchange@釜山、東京

【開催期間】2025年9月20日～23日(釜山)、10月29日～31日(東京)

【会場】釜山国際映画祭併設マーケットACFM会場(釜山)、東京国際映画祭TIFFCOM会場(東京)

【プログラム内容】

韓国映画振興委員会(KOFIC)と共同で、日韓の国際共同製作および協業の促進を目的としたマッチングイベントを開催。釜山国際映画祭併設マーケットACFM(Asian Contents & Film Market)へ5名の日本人プロデューサーを、東京国際映画祭併催のTIFFCOMへは、5名の韓国人プロデューサーを招聘し、それぞれ現地のプロデューサーと「1 on 1 ミーティング」の機会を提供。また、参加プロデューサーの紹介や日韓両国のインセンティブ制度を解説するセミナー等を実施しました。



グローバル展開事業部 セミナー

自主事業

シリーズ作品に特化した欧州最大のフェスティバル&マーケット 「Series Mania(シリーズ・マニア)」紹介オンラインセミナー

【開催日】2025年12月9日 【会場】オンライン

【共催】在日フランス大使館、アンスティチュ・フランセ日本、VIPO

【講師】ローレンス・ハーズバーグ(シリーズ・マニア総局長)、フランチェスコ・カプロ(同Forumディレクター)、ピエール・ジエムニアック(同Instituteプログラムディレクター)、クラウス・ジーママン氏(『神の雫/Drops of God』製作総指揮)

【プログラム内容】

シリーズ・マニア総局長らが、国際共同製作を推進する仕組みを解説。さらに、『神の雫/Drops of God』の製作総指揮ジーママン氏が登壇し、成功事例を通じた世界展開のヒントを共有しました。

ローレンス・ハーズバーグ(左上) フランチェスコ・カプロ(右上)
ピエール・ジエムニアック(左下) クラウス・ジーママン(右下)



AFA「東南アジアにおけるジャパニーズ・ポップカルチャープロジェクトの事例紹介」セミナー

【開催日】2025年12月18日 【会場】VIPO

【講師】ショーン・チン(SOZO社 創業者)、ヒロ・タネオカ(SOZO社 日本クライアント担当)

【プログラム内容】

東南アジアにおけるジャパニーズ・ポップカルチャーの市場状況、2025年11月末に行われたSOZO社主催イベント「Anime Festival Asia(AFA) シンガポール」やIPマーチャンダイズの実例など多岐にわたる内容を解説しました。



ショーン・チン

(敬称略)

令和6年度補正 クリエイター・事業者支援事業費補助金 (クリエイター・事業者海外展開促進) JLOX+

経済産業省 補助事業



本事業は経済産業省の令和6年度補正予算による「クリエイター・事業者支援事業費補助金(クリエイター・事業者海外展開促進)」(56.5億円)を受け、

- (1) 海外向けのローカライゼーション及びプロモーションを行う事業
- (2) 映像制作等を行う事業
 - ・国内映像制作を行う事業(プロダクション・ポストプロダクション支援)
 - ・国内映像企画開発を行う事業(プリプロダクション支援)
 - ・海外制作会社等による国内ロケ誘致等に係る支援
- (3) コンテンツのデジタル化・構造改革を行う事業
 - ・先進デジタル化・構造改革
 - ・デジタル化・流通構造改革

を支援するもので、新たな事業環境を見据え、コンテンツ産業の輸出拡大・海外展開や新市場開拓を促すことを目的としています。当補助金は、各事業の費用負担を軽減するため必要経費の一部を助成するものです。

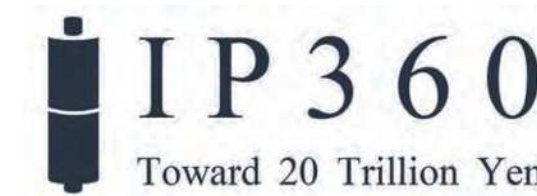
主な活動内容

- ▶ 補助金の対象や応募方法などを紹介する「補助金説明会」を開催。また、説明動画をホームページに掲載しました。
- ▶ 応募を検討する事業について相談を受ける「補助金相談会」を開催。メールや電話での相談も随時受け付けました。
- ▶ 交付決定を受けた事業者を対象に、補助を受ける経費の処理方法について基本的なルール説明等を行う「事業開始オリエンテーション」を開催しました。

令和7年度補正 コンテンツ産業成長投資支援事業費補助金 (海外展開支援・開発プラットフォーム構築支援) IP360

新規事業

経済産業省 補助事業



本事業は経済産業省の令和7年度補正予算による「コンテンツ産業成長投資支援事業費補助金(海外展開支援・開発プラットフォーム構築支援)」(29.8億円)を受け、

- (1) IP・エコシステム海外展開支援事業
- (2) ローカライズ支援事業
- (3) プロモーション支援事業
- (4) 開発プラットフォーム構築支援事業

を支援するもので、ゲーム、アニメ、音楽、実写といったコンテンツに関して、海外向けコンテンツの供給量や外国ユーザーのファンを効果的に拡大することを目的としています。当補助金は、各事業の費用負担を軽減するため必要経費の一部を助成するものです。

令和6年度補正 クリエイター・事業者支援事業費補助金 (文化芸術活動基盤強化基金造成費)

新規事業

経済産業省／日本芸術文化振興会 委託事業



本助成金は、経済産業省より「令和6年度補正 クリエイター・事業者支援事業費補助金(文化芸術活動基盤強化基金造成費)」の予算措置を受け、独立行政法人日本芸術文化振興会が事務局となって実施し、本助成金の運営補助として、一部業務を受託。

- (1) 長期にわたる国内映像制作を行う事業(プロダクション・ポストプロダクション支援)
- (2) 長期にわたる国内映像企画開発を行う事業(プリプロダクション支援)

を支援するもので、グローバル市場を目指した映像、ゲーム製作には制作会社によるIPマネジメントや収益確保が重要であり、本助成金は、制作会社が資金調達やIP活用等に主導・参画し、海外市場に訴求する高品質なコンテンツ(映像、ゲーム等)を制作する長期的な取組を支援することで、コンテンツの国際競争力や収益基盤の強化を促進することを目的としています。本助成金は、各事業の費用負担を軽減するため必要経費の一部を助成するものです。

主な活動内容

- ▶ 応募を検討する事業について相談を受ける「助成金相談会」を開催。メールや電話での相談も随時受け付けました。
- ▶ 交付決定を受けた事業者を対象に、助成を受ける経費の処理方法について基本的なルール説明等を行う「事業開始オリエンテーション」を開催しました。
- ▶ 年度を跨ぐ助成事業のため、中間報告を実施するため交付決定事業者向けの「中間報告マニュアル」を作成し公開。2026年3月末には全交付決定事業者から中間報告を受領しました。

令和7年度 舞台芸術等総合支援事業 (全国キャラバン)

新規事業

文化庁／日本芸術文化振興会 委託事業

全国における大規模で質の高い公演等の実施や配信を支援することを通じて、国内における文化的な地域格差を解消するとともに、統括団体による活動拠点の形成を促進することを目的にした、文化芸術統括団体を対象とした事業です。令和7年度予算にて実施される事業の運営事務局を受託しました。

【助成対象期間】

2025年4月1日～2026年1月31日

【交付決定件数】

全国規模の統括団体による公演等実施事業:9件

【主な活動内容】

- 交付決定団体からの問合せ対応
- 交付申請・計画変更申請等の対応
- 実績報告に関わるマニュアル作成・公開
- 実績報告確認・額の確定業務
- 次年度新規事業募集HPの設置、問合せ、応募受付対応

全国ロケーションデータベースの利用促進のための調査研究

国立映画アーカイブ 委託事業

本事業では、全国各地のフィルムコミッションが持つロケーション情報を一括検索できるシステム「全国ロケーションデータベース（JL-DB）」（ウェブサイト・スマートフォンアプリ）の充実化を軸に、そのデータベースを活用した日本各地域への映像作品撮影誘致や国内外作品のロケーションに関わるさまざまな支援を行う、地域のフィルムコミッションの体制強化等を目的としています。VIPOとジャパン・フィルムコミッション（JFC）＊がコンソーシアムを形成し、共同で事業の実施／運営を行いました。

＊ジャパン・フィルムコミッション（JFC）：国内130以上のフィルムコミッション（FC）のネットワーク組織であり、世界およびアジアのFCネットワークの会員でもある。

< 主要事業内容 >

●JL-DB利用促進のためのシステム機能追加検討、並びに運用保守・利用分析に関する業務

「全国ロケーションデータベース（JL-DB）」は2025年度、映像制作者を対象に利用状況・ロケ地探しの実態についてのヒアリングを実施しました。そしてそこで得た意見をふまえ、映像制作者にとってロケ地候補の検索がより便利になるよういくつかの改修を行いました。常に現行システムと登録データの充実について検証し改善課題を追求しています。

●JL-DBを通した海外に向けた効果的な情報発信に関する調査

海外映画・ドラマをはじめ、海外の映像制作者から日本での撮影への関心が高まっています。彼らにとってJL-DBがより便利なツールとなるよう、海外・国内のアクセス状況の調査をする一方、JFCを通じて各地FCのデータの多言語化を推進しました。また、国内のロケ受入れ体制強化のため、海外映像制作者を招いたセミナーの開催や、東京国際映画祭併催「TIFFCOM」参加等、利用促進につなげる多岐にわたる活動をしました。

●各フィルムコミッション（FC）への支援強化

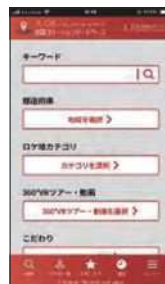
全国のロケ地情報を持ち、JL-DBのコンテンツの充実化に大きな役割を担う各地域のFCの業務は、映像制作が活発になるに従い、ますます多忙となっています。FC体制の強化を図るため、地域における撮影支援に必要な人材や地域の状況を調査し、FCのサポートができるロケエキスパートとなる人材の発掘や体制の構築を行うモデルケースを作って検証を行いました。JFC主催のこうした地域イベントのいくつかにVIPOからも参加し、イベント自体およびFCとの直接の交流等を通じて、施策設定・運営に反映させています。



JL-DB JAPAN LOCATION DATABASE
全国ロケーションデータベース



web



スマートフォン

< 関連イベント情報 >

◆海外映像制作者への対応スキルアップ！「海外制作者セミナー」

【開催日】2026年1月22日

海外作品の国内ロケが増える中、対応に関する課題の共有や、誘致の方法など海外作品制作の経験を持つ制作者と支援経験の多いエリアマネージャーやFC担当者をパネリストに迎えてディスカッションし、FC側の心構えや課題について実践的な学びの場となりました。



◆JFC全国ロケ地フェア 2025年度は夏冬二回開催

【夏：開催日】2025年8月7日

【冬：開催日】2026年1月21日

【会場】マイナビPLACE 歌舞伎座タワー

JL-DBのメインコンテンツの一つであるロケ地情報にフォーカスしたイベントで、全国から多数のFCが出展。1月に開催した冬のロケ地フェアでは過去最高の約300名の映像制作者が来場しました。VIPOのブースでは検索体験をしてもらいながらJL-DBをアピールし、多数の訪問者がその場でスマートフォンアプリのダウンロードをしてくれました。



夏



冬

海外向けオンライン出版コンテンツカタログサイト「Japan Book Bank」

自主事業

「Japan Book Bank」は、日本の出版コンテンツの翻訳出版に興味を持つ海外の出版社や、映像化を希望する映像制作会社やプロデューサー向けに構築した日本の出版コンテンツを検索できるウェブサイトです。日本の書籍・出版コンテンツと海外の出版コンテンツ関連企業等をマッチングさせ、日本の出版コンテンツの海外展開を促進することを目的としています。

「Japan Book Bank」でできること

●オンラインカタログとして出版コンテンツの検索がいつでも可能

幅広いジャンルでの日本の出版コンテンツを日本語／英語で検索することができます。

・コミック ・文芸／文庫 ・児童書 ・実用書
・ビジネス ・学参／辞典 ・医学 他 （全12ジャンル）

●言語別版權許諾情報を掲載

商談前に本サイトを利用することで、効率の良い商談が可能となります。＊版權情報は、ID登録者のみ公開されます。

＊「Japan Book Bank」は、映画、テレビ番組、アニメ、キャラクター、音楽、ゲーム、脚本、ロケ地情報、クリエイターなどのデータベース一括検索システム「Japan Content Catalog」（japancontentcatalog.jp、通称：JACC[®]）と連携しています。



Japan Book Bank



<https://japanbookbank.com/>

●指定した窓口にて問い合わせを受信

メールアドレスを開示せずに海外からの問い合わせを受けることができます。＊ID登録者のみ問い合わせが可能となります。

●「映像化の原作」としてアピール

トップページの特集等を活用し、映像化の原作として海外の出版社、映像制作会社やプロデューサーに効果的に発信することが可能です。

ローンチから5年で成約数は400件を突破！2026年4月より有料サービスへと移行し、海外向け"成果の出る出版BtoBサイト"として日常使いカタログへと進化

2021年のサイトオープン以来、無料でご利用いただいておりますが、2026年4月より有料でのご提供に変更いたしました。海外89か国より1,200名以上ものユーザーがIDを登録。サイトをきっかけとした成約も400件以上生まれています。

2か月ごとに特集ページを公開

トップページでは、2か月に一度特集内容を更新し、さまざまなジャンルの出版物のご紹介を行っています。



海外ブックフェアへの出展

フランクフルトブックフェア、ロンドンブックフェアでは、「Japan Book Bank」に登録している書籍の展示コーナーを設け、チラシの配布を通じて来場者へ直接アプローチをしました。

海外ID登録者へのメールニュースの配信

月に一度、ID登録をしている海外ユーザーへ向けてメールニュースを配信し、アクセス数の多いジャンル等、最新のトレンドをご紹介します。このメールニュース受信をきっかけとした問い合わせも発生しています。

＊登録商標「JACC」は、当機構が株式会社ITSCから承諾を得て使用しています。



海外ブックフェアでの配布チラシ（表）

アーカイブ中核拠点形成モデル事業

国立映画アーカイブ 委託事業

現地調査研究

- ▶ 関西、関東の以下の対象施設・団体にて、映画資料の所在調査を行いました。
調査対象：関西＝東映京都撮影所、井川徳道映画美術記念館※1、東近江市立湖東図書館（沢島文庫）※2／関東＝劇団前進座、日本大学芸術学部映画学科。
※1井川徳道は映画美術監督／※2沢島 忠（映画監督・舞台演出家）の旧蔵資料

映画資料所在地情報検索システム（JFROL: <https://jfrol.jp/>）の運用と効果検証

- ▶ 全国の映画資料所蔵施設7館の約27万件のデータを横断検索できるシステムを運用し、アンケートによる効果検証を実施しました。

全国映画資料館録2025の発行

- ▶ 全国の映画資料所蔵施設123館（PDF版※は110館）の情報を掲載した「全国映画資料館録2025」を編集・発行しました。
※VIPOのHP内の本事業の紹介ページにリンク掲載

< イベント開催 >

1. 「全国映画資料アーカイブサミット2026」

7回目の開催となる今回のサミットで、映画資料の保存・活用等に関する様々な事例報告やセミナー等を開催しました。

【開催日】2026年1月23日 【場 所】ライブ配信 【参加者】220名 【参加費】無料

【プログラム（タイトル／登壇者）】※敬称略

第1部：報告 令和7年度アーカイブ中核拠点形成モデル事業の実施概要について／佐藤友則（事務局）

第2部：報告 国立映画アーカイブの映画資料を活用した教育普及事業／玉田健太（国立映画アーカイブ主任研究員）、宮本法明（国立映画アーカイブ研究員）

第3部：セミナー ケーススタディで学ぶ、映画資料アーカイブの権利関係／数藤雅彦（五常総合法律事務所 パートナー弁護士）

第4部：報告 映画資料展－2025年現地報告

1. 映画字幕翻訳の仕事 ―1秒4文字の魔術（鎌倉市川喜多映画記念館）／馬場祐輔（鎌倉市川喜多映画記念館 総括責任者）
2. 川辺弘一 映画コレクション展（羽島市映画資料館）／近藤良一（羽島市映画資料館 相談役）

第5部：報告 映画資料から生まれた映画『ファントム・ライダース』二部作をめぐって／佐々木友輔（鳥取大学准教授）、杵島和泉（神戸大学大学院生）

第6部：報告 書籍「日本アニメーション映画史」収録作品目録の改訂とウェブ版作成について／松山ひとみ（神戸映画資料館研究員）

第7部：セミナー 海外に広がる日本映画資料-イェール大学図書館の日本映画コレクションについて／アーロン・ジェロー（イェール大学教授）

2. 「天下御免!東映京都撮影所物語／劇団前進座の映画史」(展示)

【開催期間】2026年2月6日～3月1日 【場 所】調布市文化会館たづくり2階 北ギャラリー 【参加費】無料

【内 容】令和7年度事業の調査結果を元にした、第1部「東映京都撮影所」と第2部「劇団前進座」をテーマにした二部構成の展示。1951年の設立以来、人気スターが出演した時代劇や任侠作品等の様々な映画やテレビドラマ作品を世に送り出した「東映京都撮影所」、そして1933年から映画製作に臨み、山中貞雄、溝口健二監督らの名作、独立プロダクションによる社会派作品等を生み出した「劇団前進座」の歴史を貴重な映画資料でたどりました。

歴史的・文化的価値のある我が国の貴重な文化関係資料が散逸・消失することのないよう、アーカイブの構築に向けた資料の保存及び活用を図るための望ましい仕組みの在り方について調査研究等を行い、映画関連の非フィルム資料のアーカイブに係る中核拠点の形成を図るため、当該分野のネットワーク化を推進することにより、分野全体のアーカイブの構築・運営や共同利用の促進等を行うことを目的としています。



VIPOインタビュー

2016年からスタートしたVIPOインタビューシリーズ。コンテンツ業界の旬なトピックやイベント、プロジェクトなどをテーマにさまざまな方にインタビューを行っています。内閣府の知的財産戦略推進事務局長には毎年、該当年の「知的財産推進計画」についてお話を伺い記事化。またVIPOアカデミー「コーポレートリーダーコース」で実施された経営者講演の内容やVIPOが運営・実施する事業の成果として、関係者らにお話を伺い、VIPO事業の支援内容や経験談等をご紹介します。（掲載先 <https://www.vipo.or.jp/interview/list/>）

2025年8月

NHK戦後80年ドラマ

『八月の声を運ぶ男』放送記念！
「VIPO Film Lab／映画の企画開発講座 参加企画が映像化されるまで―制作秘話―」

松本太一（株式会社WOWOW コンテンツプロデュース局
ドラマ制作部プロデューサー）

「VIPO Film Lab」事業の一環として開催された「映画の企画開発講座」講師：脚本家 池端俊策（2023年2月実施）に参加し、提出された企画がNHKの戦後80年ドラマ『八月の声を運ぶ男』（2025年8月13日OA）として放送いたしました。講座の成果報告と放送を記念して、講座に参加された企画立案者の松本太一氏（WOWOWプロデューサー）に企画を立ち上げたきっかけから、映像化に至るまでのお話と講座での学びについて伺いました。



2025年12月

内閣府に聞く――コンテンツ産業を国家の柱へ。知的財産戦略と「協調と競争の好循環」が導くコンテンツ産業の未来

中原裕彦（内閣府 知的財産戦略推進事務局長）

コンテンツ産業が国の基幹産業として位置づけられた2024年の「新たなクールジャパン戦略」発表から、2025年6月には「知的財産推進計画2025～IPトランスフォーメーション～」が策定されました。目標の再確認とともに、現状分析、今後の方向性、具体的な施策が示されました。コンテンツ産業の成長に向けた気運が高まる今、国はどのような政策でその発展を後押ししようとしているのか、2025年7月に内閣府知的財産戦略推進事務局長に着任された中原裕彦氏にお話を伺いました。



2026年3月

世界へ挑む映画人たち
～撮影監督・戸田義久氏に聞く
AFI留学で得たもの

戸田義久（撮影監督）

VIPO（ヴィーポ）では、将来の映像産業を担うプロフェッショナルの発掘と育成を目指すと共に、日本の映画企画や若手クリエイターが世界に出ていく仕組みを構築することを目的として、AFI(American Film Institute) Conservatoryへ留学を希望する日本人の推薦活動を行っています。入学決定者には“TATSUMI YODA奨学金制度(The Tom Yoda Scholarship Award)”などの奨学金制度給付についてもサポートをしています。今回、2023年秋に撮影監督／Cinematographyコースに合格、留学した戸田義久さんにお話をうかがいました。



2025年9月／2026年1月

韓国コンテンツ振興院(KOCCA)

東京・大阪ビジネスセンター長インタビュー

＜第一弾：東京ビジネスセンター長編＞
韓国コンテンツの最新動向や日韓のコンテンツ産業が直面する課題と将来の展望
李 惠恩（イ ヘウン）(KOCCA[韓国コンテンツ振興院]東京ビジネスセンター センター長)



＜第二弾：大阪ビジネスセンター長編＞
大阪発、日韓連携で目指すグローバル市場へのチャレンジとKOCCAの「コンテンツ金融支援制度」を紐解く
白 承嬭（ベック スンヒョク）(KOCCA[韓国コンテンツ振興院]大阪ビジネスセンター センター長)



世界25カ所にビジネスセンターを展開している韓国コンテンツ産業の育成と海外展開を支援する政府機関、KOCCA（韓国コンテンツ振興院）は、日本での拠点を拡大しています。2024年10月に白承嬭（ベック スンヒョク）氏をセンター長に迎えて大阪ビジネスセンターを新設。翌11月には、東京ビジネスセンターに「KOCCA CKL TOKYO」を併設しました。両センター長にそれぞれインタビューを行い、韓国コンテンツの最新動向やKOCCAの「コンテンツ金融支援制度」、日韓のコンテンツ産業が直面する課題と将来の展望についてお話を伺いました。

2026年2月

「目標は小さく、夢は大きく」
38年間、毎年“最高の運”を更新し続ける株式会社IGポート
代表取締役社長 石川光久氏の
飽くなき挑戦とは

（VIPOアカデミー「コーポレートリーダーコース」経営者講演より再構成）

石川光久（株式会社IGポート 代表取締役社長／株式会社プロダクション・アイジー代表取締役会長）

『攻殻機動隊』シリーズや『PSYCHO-PASS サイコパス』『ハイキュー!!』シリーズなど多くのヒット作を生み出してきたProduction I.G.。そして、『進撃の巨人（Season1～3）』『SPY×FAMILY』といった話題作を手がけるWIT STUDIO。日本のアニメーション界を牽引する2大スタジオを傘下に収める、株式会社IGポート代表取締役社長・石川光久氏は、成功の鍵は「運の強さ」と「人との出会い」にあるといいます。名だたるクリエイターと築き上げた深い信頼関係を大事にしながら、その経営哲学は「チームは最小、権限は最大」にすること、そして人を育てるのではなく「育つ環境を与える」こと。38年に及ぶキャリアの中で今が一番辛くも楽しいと述べる石川氏に「運とご縁」を繋ぐことへの情熱とこれまでについてお話を伺いました。

